

平成22年度 まちづくり座談会（日詰地区）

◎会場 保健センター

◎日時 8月1日（日）午前9時30分～正午

◎参加者 17人

◎役場出席者 14人（町長、副町長、建設部長、経営支援部長、町民課長、長寿健康課長、農林課長、都市計画課長、企画課長、企画課職員5人）

質 疑 応 答

=====
○①保健センターの北側に作られている東裏公園（自転車が入れる公園）が未完成である。子どもたちも楽しみにしているので、正確な情報がほしい。

②公園ができれば、子どもたちの自転車訓練を、この公園でやってほしい。③草刈りが大変になる。④公園の工事の進捗状況、管理、利用法などを知りたい。

●【都市計画課長】①・④管理についてはまだ具体的に決まっていない。工事は、少し遅れていて6月いっぱい延期。芝の部分はOKだが、種子の吹きつけ部分が雨で流され、雑草が多く出てきてしまっている。雑草を取り除いた後、再度吹きつけしようと思う。②自転車訓練には、スペース的に難しい。土木課と相談してみる。③今後の管理については、設置行政区だけでは戸数が少ないので、今後検討していこうと思っている。

○7月末から、夏休みのラジオ体操で、親も合わせて40～50人が集まって行っている。山の方をはやく芝生にしてほしい。役場でできない場合は、募金を集めてでもやりたいと思う。

「東裏公園」という名称について。名称は良いと思うが、皆さんの公園であるということ（‘東裏の人の公園’というわけではないこと）を周知してほしい。

また当初の計画では、砂場を作らず、犬を入れないということにしていた。犬の連れ込み禁止、自転車・スクーター・三輪車の使用についての注意事項も、早めに入りの案内板に書いてほしい。事故が起こらないようにしてほしい。

●【都市計画課長】みんなの公園であるということの周知を図っていききたい。案内板もできるだけ早く作りたと思う。

○東裏公園近くの空き地に、ミニホールを建ててほしい。そうすれば、日詰の街に人が集まってきて、町の活性化につながるし、バイパスを越えなくても活動が行える。紫波中央駅前も良いが、日詰の街を愛しているので、ぜひ意見をくみ取ってほしい。

●【企画課長】総合計画の中に組み入れていきます。

○ 公園の維持・管理はどのように行うのか明確にしてほしい。誰も管理者のいない公園にしてほしくない。

●【企画課長】承りました。

○ふるさと納税で、紫波町を元気にしてほしい。

ふるさと納税の取り組みは、地域によって格差がある。紫波町でもぜひプロジェクトチームなどを作って取り組んでほしい。5000円の方、紫波町の産物を送るなどの方法もある（佐賀県、鳥取県の事例有り）。ふるさとの大切さを町民が意識できるようになり、自治意識の変化につながると思う。この案を紫波町の情報発信、交流につなげてほしい。

●【企画課長】金額の基準や、お礼の内容について検討中です。

●【経営支援部長】ふるさと納税者には、リピーター（古館出身）がいる。そして、一度納税してくださった人には、ずっと広報紙「紫波ネット」を送っている。町としても、このような方向で「ふるさと納税」の取り組みを検討していきたいと思う。

○情報交流プラザの規模はどのくらいか。○医療機関は入るのか。

●【藤滝主幹】

昨年6月、第3セクター「オガール紫波」が設立され、建物の規模は6000㎡2階建ての計画。これから事業者を1社に選定するところ。施設内容は、1階が図書館、2階が交流館となる予定。東側に民間、西側が産直、宿泊施設が入り、2階の500㎡くらいには子育て応援施設が入る予定。病院については、確実にになったらお知らせします。来年1月から工事を行い、H24年4月に建物が完成し、6月に図書館オープン予定。

○①昔田んぼであったところが舗装され、雨水が道路にたまるような水害が増えた。町で、上流の方に家を建てる場合には、雨水マス（地下浸透）の設置を義務づけるような条例を作してほしい。②大坪川の河川改修、堤防づくりを行ってほしい。陸上競技場の観客席を高くしたりして、堤防のようにしてほしい。100年くらい守れるのではないかと思う。

●【建設部長】①雨水マスについて。民間開発では行われているが、町の開発の基準としては行う予定はない。設置するだけでなく、維持管理の問題がある。土地利用審査委員会と毎回検討している話題になっており、どこまで業者負担でやるかなどの議論はされている。②運動公園は遊水池としての機能があります。特に野球場は構造上、地中を通過して大坪川の水が入るようになっています。堤防を越えて水が入ってきているわけではありません。よって、日詰7区にはできるだけ灌水しないように整備を進めていきたいです。具体的には、下河原ポンプ場の整備計画を立てています。最近の降雨の傾向を見ると、なかなか計算通りにはいかないのが、緊急時の連絡体制を強化していきます。

○①役場庁舎を前倒し建設できないか。②紫波中央駅の東口をつくり、電車から降りた客が、日詰の街に歩いていけるようにしてほしい。日詰の活性化につなげたい。

●→町長総括で回答。

○①健康診断の受診率が低いのではないか。心電図のような検査がないようなので、検査項目を見直してもらえないか。②介護について。老人クラブが解散してしまい、とてもさみしい。出歩かなくなつて、ますます足腰が弱くなる。生きがい対策を行つてほしい。③認知症への対応が分からない家族が多い。もっとたくさんの講演会や相談会を開催してほしい。

●【長寿健康課長】①受診者の人数は去年と今年ではほぼ変わらない。しかし、受診率は全国的にも伸びておらず、目標設定をしながら受診率向上を目指している。去年は50%が目標で達成しており、今年58%、来年63%、再来年65%が目標である。受診率は全国的にも伸びていないので、国でも検討しているようだ。特定健診では、数値が悪かった人のみ、次年度に心電図などを受診するようになっている。②老人クラブは現在70くらいある。加入年齢60歳、実際70歳くらいで入る。今後も補助を出していくので、続けていってほしい。③PRが足りなかったと思うが、「認知症サポーター養成講座」というものを行っている。内容は、認知症はどのようなもので、どういうことが起こり、どう対応すればよいか、ということについて学ぶ講座。認知症について広めていきたい、そして将来的に認知症にならないためにはということも含めて講習を行っている。

●【町民課長】今回の検診では、日詰の受診率が39.35%で、町内で一番少ない。目標達成しないと、国からのペナルティ（検討中）がかかる恐れもある。秋にも検診があるので、ぜひ受診してください。

○草刈りについて。古館と日詰の間の西七久保は、誰がやればよいのか分からないところである。以前、町にお願いしてやってもらい助かった。

町の補助をもらって、2つの班でゴミ集積所を作った。少しはみ出してしまった部分の土地所有者には、お礼金として年に1万円払っている。これから、他地区でも同様の例が出てくると思うが、土地代を町の補助金などで、どうにかすることはできないか。

●→環境課から後日返事をします。

○①紫波中央駅前地区の施設への車の出入り口・歩道は、道路から歩道に上がる部分が傾斜になっている構造か。冬場に傾斜部分を歩くと滑って転ぶ射。高齢社会に適した歩道とするため、歩道との境は縁石だけにして、平らにするなどの検討をしてほしい。

②今日の説明が分かりやすい。町長の意志と思いが素晴らしい。しかし普段、役場の職員はどこの言葉か分からない言葉を使う。「アイドリングストップにご協力ください。駐車中はエンジンを止めてください。」という看板があった。並列して書く意味はあるのか。「コ

コミュニティーセンター」も難しい。是非これからも、分かりやすい言葉を使って「人にやさしい紫波町」にしてほしい。

●【藤滝主幹】①障害のある人も不自由なく使える道路として、ユニバーサルデザインを意識し、平らな道路計画を立てています。ただし、道路と歩道は5センチメートルの段差がある構造です。それは、車道側の2センチメートルから5センチメートルにすりつくゆるやかな段差になります。

●【企画課長】②町長からの指示で「分かりやすく」「話しやすく」ということが挙げられたので、カタカナ語、行政用語をなるべく使わない工夫や、会場も机を取り払った形式にした。座談会に限らず、このようなことを意識してまいりたい。

○サンビジジ紫波があり、サッカー場ができるが、学校が作られるというような計画はあるか。資格をとるような学校があれば、若い人たちが集まると思うのだが。

●【藤滝主幹】現時点で計画はない。学校には、運動場などの制約があるため、町立の学校は建てられない。しかし、民間で学校を建てたいという話があれば、可能性としてはある。企業から提案があれば考えたい。

○紫波総合高校の生徒について。NPO法人「ぬくもり」（介護・学童保育施設）や消防演習、夏まつりなどでボランティアをしていた。とても良いことであると思う。農家の果樹の手伝いなども、体験として触れさせたいと思った。これからも進めてほしい。

●→ご要望として受け止めます。

●【町長総括】

東裏公園は、完成間近。地域の皆さんが活用しやすいような施設を作っていきたい。

また、保健センターを交えた施設の活用についても、計画に組み込んでいきたい。

ふるさと納税については、役場と地区の皆さんとで県の「ふるさと会」をやるようなシステムをもうけながら、今後も進めていきたい。

役場庁舎を前倒しして建ててほしいということについては、議員の皆さんと、位置の決定をし、計画を立てていく。できるだけご要望に応えられるように努めてまいります。

紫波中央駅の東口の道路計画は、徐々に進んでいます。駅の東口については、地域を包摂した考え方でエレベーターも視野に入れて計画を立てていきたいです。乗降者人数が多ければ、JRに設置義務がありますが、紫波中央駅は少ないため、町で作らなくてはなりません。

紫波中央駅前に学校を建てることについては、可能性が無いわけではない。東口のほうが開発されたら、そこに建つ可能性もある。東口ができたら、公募していきたいと思う。

紫波総合高校の生徒の社会参加活動は、非常に多く参加がある。サイクルチャレンジやeco-bee デザインなど、ここ2～3年、特に積極的に町の事業に参加している。紫波総合高

校との連携を今後も進めていきたいと思う。

日詰地区の水害については、過去 2 回、大変なご不便をおかけした。下河原ポンプ場のリニューアルを 3 年間かけて行っていきたい。赤石、日詰地区は被害がでないように、国土交通省に要望を出している。県内 11 団体で要望を出す予定。

今回の要望は総合計画に組み入れていきたいと思っている。町の発展を期していきたい。ありがとうございました。

平成22年度 まちづくり座談会（古館地区）

◎会場 古館公民館

◎日時 8月1日（日）午後1時30分～4時

◎参加者 23人

◎役場出席者 14人（町長、副町長、建設部長、経営支援部長、町民課長、長寿健康課長、農林課長、都市計画課長、企画課長、企画課職員5人）

質 疑 応 答

〇「市民主体の地域づくり」を目指しているのは大変いいことだが、紫波町に実際に自立している地域はないと思う。矢巾町では、区長が自治会長を兼務している地区が6割ある。現在と同じような形なら、10年後も同じ状態のままである。今、思い切った改革をしなければならない。

●【企画課長】コミュニティのあり方について、今後矢巾町も参考してに考えていきたい。

〇現在、自治活動は自治公民館で行っており、区長は5つの行政区にいるが自治公民館とは直接関係はない。町内会（自治会）と行政区とは、全く別のものであると思ってきた。前者は自治活動の場であり、後者は役場との縦の関係にあるものだと思っている。日詰には町内会と平行して自治会があると聞いているので、日詰や他市町村の取り組み情報が知りたい。

〇市民参加として、市民の声をどのように反映させていくか。地区創造会議はどこが主体であるのが不明確で、どのように反映させるかについても説明がない。今日ここで話した話もどうなるのか疑問をもつ。もっとかみくだいた説明を行い、町民に近いところで行ってほしいと思う。

●【企画課長】全庁的な議論が必要であると考え。町としてどのような支援が行えるか考える。

〇地区創造会議の資料は提供していないのか。

●【企画課長】ご要望に応じます。

〇住民が自治公民館で意見を集めても、地域・役場にその受け皿がない。地域の中で、自分たちの問題を話し合っ解決するという形には全くなっていない。それは、自治公民館長と行政区長が同じではないことが原因。この状態をなんとかしてほしい。地区創造会議は3回あり、良い意見がたくさんあったが、どうなっているのか分からない。

●【企画課長】総合計画に組み入れていきたい。

○もし、自主的に上町地区全体の声を集めるとしたら、区長ではなく、自治公民館長が集めるのが自然な形になると思う。いざやるとなると、地域では意見がでると思うので、地元で出た意見の受け皿となる体制をつくってほしい。

●【経営支援部長】町が地域の実情をよく把握できていないという実態を再認識した。地域によっては、コミュニティーが自治会主体のところや、農家組合が中心になって自治公民館長、区長、班長が集まって話し合いをしているところもある。まずは、それぞれの地域の把握し、課題を整理していきたい。

○自立できる自治会がつくれるように、できるだけ早くつくってほしい。

○城山公園で自殺者が多い。環境整備を検討してほしい。

○遊歩道周辺の整備もしてほしい。(草刈りなど)整備をする人には、近所の人を入れてほしい。

●【建設部長】城山公園の近所の人管理していたときには行き届いていた管理がされていたと思うのですが、リーマンショック以降の失業対策の関係で、離職者を雇用した。彼は優秀な職員であります。引き継ぎ等でまだうまくいっていない部分があったのだと思う。愛着心を持って、城山公園の管理を行えるように職員研修してまいりますし、気がついたときには皆さんからもご指導お願いいたします。

○城山公園を自殺の名所にしてほしくない。

○城山公園東側の景観について。杉が伸びていて、清流が見えない。間伐を行ってもらえないか。

●→土木課から、後日お返事いたします。

●【農林課長】補足) 昨年、杉を切ったり、ヤマワサビを植えたりして景観をよくする取り組みを進めている。

○城山公園から見える眺めで、電車が通っている辺りは景観がよいところ。できれば移してほしい。もしくは何とかしてほしい。

●→担当課へお伝えいたします。

○①自殺者は何人くらいなのか。②本誓寺のところの信号機のある道路が狭くて危険である。

●【町民課長】①町に戸籍がある人では、多い月で2人程度、平均すると月に1人くらいが自殺で亡くなっている。

●【都市計画課長】②国土交通省に何度か行き要望している。しかし、右折レーンをつけ

るには町で負担しなくてはならない。予算の都合上、なかなか厳しい。

●【建設部長】②国道渋滞箇所については、県で優先順位をつけて解消のための工事に着手している。県内で百数十カ所あるが、大半が盛岡市内になってしまう。今後もさらに、国土交通省と交渉を重ねていきたい。

○子育て支援の実態はどうなっているのか。

●【企画課長】紫波中央駅前のオガールB棟に子育て応援センターを作る予定。お母さん方の、子育てストレスを発散できるようにしたい。

○自殺者が多いという話題も出ていたが、働く場所がないということも原因になっているのではないかと。働き場所の確保、資格取得の補助など、就労支援を総合計画に組み入れてほしい。

●【企画課長】自殺の原因としては、第一位が健康上の理由、第二位が経済的な理由になっており、この2つの理由で7割くらいを占めている。就労支援対策についても、総合計画の中に組み入れて考えていきたいと思う。

●【長寿健康課長】生活保護申請は、例年は20件ほどだったのが50件になるなど、去年からものすごく増えた。就学、就職活動などの補助もしているのですが、困ったときには福祉課にご相談ください。

○紫波橋の東にあるセブンイレブン前の交差点はなぜあのような形なのか。急に曲がらなくてはならず、危ない。

●【建設部長】ほ場整備と一緒に道路整備を行いたいのだが、今ひとつ進んでない現状。仮に、真っすぐに道路を通す場合、店舗をずらさなくても駐車場を突っ切るかたちで整備することができるようになっている。今後も長い目線で整備を進めていきたい。

○東根山の駐車場、登山道エリアをもっと整備すれば1周できるコースになるし、PRすればもっと人が来ると思う。「入山者が記録すると温泉100円引き」などプラスαの工夫をすると、温泉に入る人も増えるのではないかと。東根山をもっと町もバックアップし、大切にしてほしい。

●【企画課長】貴重なご意見として受け止めます。

○東根山のふもとに公営墓地を作してほしい。

●→町長総括で回答。

○古館1区に児童公園がなく、子どもが道路で遊んでいて危険。事故も起こっている。

●【建設部長】古館1区周辺の場所に、新たに公園を作るのは難しい。子どもたちに「道

路で遊ばない」という交通安全教育を広めていきたいと思う。

○紫波総合高校前の跨線橋の辺りが渋滞する。また、歩道を新たに作ってもらったが、除雪車が来ないため危ない。今後の周辺整備の計画はどうなっているか。

●【建設部長】都市計画道路として真っすぐにする構想ですが、あまり進んでいないのが現状。跨線橋の歩道は場所を南側に移して幅を広くした経緯がある。現在は、日詰水分線を重点的に整備しているところ。希望ヶ丘線東側は歩道整備、反対側は下水道の整備を検討している。通学路としては、児童生徒の安全を最優先に考えていきたい。

また、橋の上の雪は溶けにくく、除雪後の積雪が残ります。融雪剤をまくなど、今年の計画に盛り込みたいと思う。

●【町長総括】

自治会のあり方については、地区によって様々な現状がある。長岡地区では農家組合、区長、公民館長が地域の代表であるが、農業組合の無い地区では状況が異なってくる。地域ごとの課題を明確にしなければ解決できない問題であるので、多くの時間を要すると思われるが、自治体組織のあり方について今後協議していかなくてはならないと思う。

循環型社会については評価していただいた。2000年当初は大変だと思っていたが、時代の流れがこのように変わってきた。新しい計画でも引き続き、押し進めてまいりたい。

城山公園については、自殺の名所ではなく景観の名所にするため、整備していきたい。「最後の場所」ではなく、若者が集えるような場所にしていきたい。

子育て支援について。紫波中央駅前の子育て支援センターを充実させたい。また、施設体制だけでなく、みんなと一緒に支援できるシステムをつくっていきたい。地域の高齢者がボランティアで行う活動なども支援したいと思っている。いずれにしても、子育てに優しい紫波町を目指していきたい。

町営墓地は要望が多く「民営でもいいので設置してほしい」という話も出されていたので、次期総合計画の課題としてまいります。

地域の人が安心して暮らせることが大切であるので、地域の道路網の整備を今後も進めていきたい。

本日は、貴重なご意見・ご提言をありがとうございました。

平成22年度 まちづくり座談会（長岡地区）

◎会場 長岡公民館

◎日時 7月29日（木）午後7時～9時

◎参加者 9人

◎役場出席者 13人（町長、教育長、教育部長、長寿健康課長、農林課長、環境課長、土木課長、水道事業所長、企画課長、企画課職員4人）

質 疑 応 答

=====
○少子高齢化が進んでいるが、子どもの数や学校などは今後10年間どのように推移していくのか。

●【教育部長】現在紫波町の小・中学生は3078人だが、H28年には2739人になる予想。彦部・佐比内小学校（河東地区）には複式学校があり、いずれは河西地区にも複式学級ができると考えられる。また、学校は地域の核となる施設であることから、当面、統廃合は考えない。

○長岡ゆめプランにかかわっている。地区には様々な観光資源があることを実感している。どのように生かしていけば良いか、ということを考えている。今秋には長岡地区内でツアーを行う予定。

○地域の人々、特に子どもたちの助け合いの精神が薄れてきているのではないか。

●【教育長】「結い」の心や精神を、親たちが子ども達に伝えていくことが大切。小規模の学校の方が、一人一人の個性を大切にされた教育が行える。その教育を支えているのは、地域の方々の協力であると思う。

○災害マップの配付があったが、実際にどのように逃げたら良いのか、どのように避難を誘導したらよいか分からない。町ではどのように考えているのか。

●→町長総括で回答。

○地域に一人暮らしの高齢者や、高齢者だけの家庭が増えていることが不安。何か対策は。

●【長寿健康課長】町には現在、65歳以上の一人暮らし世帯と65歳以上の世帯が1200世帯ほどあるため、一人暮らし世帯の人が倒れたときの緊急連絡先を調査しています。また、1年に1回は直接訪問して状況を把握しています。発作的な病気を持っている人には、NTT回線を使った、セキュリティー会社が駆けつける仕組みもあります。

最近は少なくなってきていますが、隣近所の人が毎日見守りを行っているところもあります。役場だけでは把握できない部分もありますので、地域の人たちの協力をいただきながら進めていきたいです。

○地域で道路工事が同時に何本も行われているが、4年くらいかかって1本できている。一気に1本作ってしまう方が効率的なのではないか。

●【土木課長】道路を新しく作るのにはとてもお金がかかるため、少しずつ計画的に進めている。工事の順番については、町内の道路がたくさんあるため、どこを先にとという順番が付けられない。このことから、申請のあった地区で予算を調整して工事を進めていくことになるが、少しでも手をかけることで交通が良くなるという地域については、「協働」ということで、地域の皆さんにご協力いただきながら工事を進めている。

○①少子化に伴い、児童館や保育所などの施設の統廃合を考える必要があるのではないか。

②また、子育てを支える環境の整備が必要である。

●【町長】①児童館、保育所の統合の見込みについては、現在調整中です。②また、紫波中央駅前に子育て応援施設を新設する予定です。駅前に子どもを預けて親が働きに行けるようにしたいと考えています。

○①河川からの水害に対する対処をスムーズに行ってくれて感謝している。②高齢化で草取りに出て来られる人が少ないため、地域の道路の草取りが大変。何か解決方法はないものか。③舗装の順番がなかなか回ってこない。

●【土木課長】②について。県道については、業者委託を行っているところもあるが、町道で業者に委託している例はない。どうしようもない場合はご連絡をいただければ対応しますのでご協力をお願いします。

●→③町長総括で回答。

○犬草停留所のあたりにクマが出て、子どもたちの通学に危ないので、「クマ出る」看板の設置や、わなの対策をしてほしい。

●【環境課長】今年は館森神社の北側に出てくるようになってきました。看板の設置はご要望にお応えします。わなはクマが確実に出るという場所を特定してから設置します。場所特定のためにも、クマの目撃情報は環境課にお寄せください。

○カモシカ、ニホンジカ、サルなども見られるようになってきた。

●【環境課長】元々いない動物は駆除すべきという意見もあるが、自然保護という観点から、すぐ駆除というわけにはいかない。

○皮膚病のタヌキがたくさん出てきている。危険で困っている。

●【環境課長】カイセンという病気にかかったタヌキだと思う。気候の変化の影響ではな

いか。

○テンも出てきている。

○長岡中央果樹生産組合の敷地にカモが来るため、リンゴの収穫作業中に狩猟が行われる。

「発砲禁止」の旗を立ててもらってはできないものか。

●近くに人がいる所で発砲は問題があると思う。すぐに禁猟区にするのは難しいが、「発砲注意」「発砲禁止」などの旗が用意してあるので、それらを活用していただきたい。

○六日町でカラスが多い。駆除できないものか。

●相談してもらえば、農協の有害鳥獣捕獲隊が対応する。

○簡易給水施設について。26世帯あるうち、まだ整備されていない家もある。水質もあまり良くないという噂。整備を急いでほしい。

●【水道事業所長】10軒くらいまだ入っていない。経費がかかるため、なかなか整備を進められない。まずは、現状維持に努めたい。

○水源がないのが問題であると思う。

○①紫波中央駅前が暗い。お店も早く閉まってしまうため、防犯対策も兼ねて、もう少し明るくできないものだろうか。また、もっと駅前らしく商店街整備も行ってほしい。②役場職員の気持ちの持ち方についてであるが、もっと役場の職員に、地域の活動に参加してほしい。一緒に活動することで、お互いの気持ちも理解できると思う。職員と地域の差をなくしていけるよう、若手・中堅職員に対して、活動に参加するよう指導してほしい。

●→町長総括で回答。

○議員の地域へのかかわり方。議員も、地域に密着した政策を提言してほしい。そうすれば、町政の発展、活性化につながると思う。

●【企画課長】ご提言として受け止めます。

●【町長総括】

少子化について。学校や公民館は地域の大きなよりどころなので、できるだけ維持していきたいと思う。ただ、子育てについては早朝・夜の要望が多いため、保育所などの統合を考えていきたい。

長岡ゆめプランについて。長岡の歴史・文化を後世に残して行ってほしい。

災害マップと避難経路について。中央地区はプライバシーの問題で、高齢者世帯の連帯が難しくなっている。これから検討を進め、活用しやすくしていきたい。

道路整備について。財政の問題でなかなか手をつけられないが地域のボランティアに協力いただいて、整備していきたい。

水道は命の綱であるので、横沢、大志田地区など未給水の地域の解消に努めていきたい。

紫波中央駅前が暗いということについては、早急に相談したい。商店街については、フ

ットボール練習場に集まってくる人に対応できるように整備していきたい。

町職員の地域とのかかわりについては、今後も職員に呼びかけていきたい。

皆さまからいただいたご意見・ご提言を参考に、活力あるまちづくりにつながる総合計画にしていきたい。

平成22年度 まちづくり座談会（佐比内地区）

◎会場 佐比内公民館

◎日時 7月28日（水）午後7時～9時

◎参加者 15人

◎役場出席者 14人（町長、産業部長、経営支援部長、福祉課長、環境課長、下水道課長、企画課長、生涯学習課長、農業委員会事務局長、企画課職員5人）

質 疑 応 答

=====

○農業後継者問題について。どのような支援対策があるのか。

●【産業部長】農業後継者問題は、ここ10年で深刻化すると見込んでいるため、対策の一つとして、新規就労者の支援を行っています。

また、後継者育成支援として、農林業公社を設置し、農業だけでなく林業も含めて対策を考えていきたいです。新規就農者へは、その人が自分に合った農業スタイルを見つけるまでの研修期間を支援できるようにしたいと思っています。

○日詰に通う道路の松が枯れてきている。マツクイムシの影響か。お金がかなりかけられていると噂で聞くが、実際は現在どのような状況なのか。

●【産業部長】県はこれまで、マツクイムシの防御ラインとして、紫波町で対策をとってきたが、防ぎ切れていないのが現状。薬をまくと生態系を崩すため、葉が赤くなったものを見つけたら、1本1本切る方法をとってきた。一番良い方法としては、半径50mの木を切る方法なのだが、地主の許可を得られない場合もあり、結局盛岡まで広まってしまった。

予算としては、実際、マツクイムシに700万円かけた年もあった。現在は、間伐用の予算に使われていた森林税をマツクイムシ対策に使ってほしいと要望している。しかし、現在ではまだ1本1本切る方法をとっていくしかない。

農家の人で、自家伐採してくれる人に1本2000円の謝礼を払う制度なども農林業公社で行おうかと考えている。実際に水分地区では、チェーンソーの使い方などの講習会を行ったりしている。

○ マツクイムシ対策についてもう少し教えてほしい。

●【産業部長】花巻など、他の地区ではもうあきらめている。症状が出ているものを切っているが、表に表れていない感染木もある。マツクイムシの飛散期を避けて共同間伐を行い、搬出するという方法も検討したい。まず現在は、県に森林税で対策してほしいという

ことを要望してまいりますので、ご支援をよろしく申し上げます。

○労力のかかる農産物を作っている地域でも高齢化が進み、いかに後継者を育てていくかが課題。集落を大きくして遊休農地になりそうなところを地域で守りたいが、40町歩の面積をどう保っていったらよいか。中山間を大きくするか、今のまま守りながらやっていく方が良いのか、アドバイスがほしい。

●【産業部長】中山間直接支払制度は、中山間で農業を営む人々の職業保障をする意味で有効な制度であると思っている。もうすぐ第3期が始まるので、皆さんに説明をする機会を農林課で設けるので是非相談してほしい。また、これから農業改良普及センターにある空き事務所をほぼ無償で借り、ご相談・アドバイスをいただける施設を設ける予定なので、その際は利用してほしい。

○8月から新しいごみ分別処理が始まるが、高齢者の一人暮らしや、ごみ袋を運べない人がいるのではないかと思う。どのようにしたらよいかヒントがほしい。

●【環境課長】集積所までが遠いなど、同じような声がほかの地区からも聞こえてきます。ごみの収集に対する明確な答えはないですが、独居老人の場合、個別収集をする方法やヘルパーをお願いしているところもあるようです。今後、ごみの収集についても対応策を考えていきたいです。

○①中山間直接支払制度は、強制的には行えないものなのか。「参加しない」という人がいるのだが…。②ロードレース大会は、田植えや稲刈りの時期を避けて行ってほしい。兼業農家なので、日曜日は貴重。

●【産業部長】①強制的には行えない。

●【生涯学習課長】②県自転車競技連盟に要望しておきますが、午前中だけですなのでなんとかご理解をお願いします。

○若い人から高齢者まで楽しめるイベントをもっと提供してほしい。遠い地区の場合、行きたくても行けないので、開催地などをもう少し分散してほしい。

●【企画課長】紫波町では観光交流協会主催のイベントとして、桜まつり、夏まつり、冬まつり、フルーツパーク秋の大収穫祭などが行われている。町民が利用しやすいような形態にしていくよう、観光交流協会に働きかけていくとともに、総合計画の中にもそのような内容を盛り込んでいきたい。

○①中山間直接支払制度について。以前に一度申込をしたが、傾斜が15度以上ないからと断られた。今回は2回目で、3人で申し込んでいる。これから高齢者が増えるが、役場ではどのように考えているのか。

②8月下旬に大きい観光バスがたくさん来るのだが、枝が落ちるため、運転者から文句を言われる。下の方なら自分で切れるが、上の方は切れない。396号に近いところや、高いところは町で切ってもらえないか。

●【産業部長】①基準を緩めるわけにはいかないのですが、地図で傾斜を把握しながら、基準を満たすように申請してほしい。

●【生涯学習課長】②土木課と協議中。8月5日に作業に入る予定だが、場所は改めて把握したい。

○少子化の問題について。若い人（子どもを産む人）が地元に残るような方法はないものか。普段から、金山まつりの時のような人口になればよいと思う。

●【企画課長】中央部以外のすべての小学校の児童数が減少しており、様々な要因が絡み合っているため、有効な手段がなかなか見つかっていない。今後、町民との話し合いの中で仕組みを考えていきたい。

○草刈りをしているが、上の方（町の土地との境界線あたり）の草などが通学路に覆い被さってくるので、整備を町にお願いしたい。

●→町長総括で回答。

○県立病院跡を利用できないか。

○県立紫波診療センターのベッド65床の活用をどうするのか。総合計画に「健康で安心して」というものを掲げているように、少子化・高齢化に対する方策を何か立ててほしい。町には終末期医療が必要である。

●→町長総括で回答。

○リフォームの助成金について。公共事業は無理でも、活用できないものか。

●【産業部長】まずは周知を図っていききたい。窓口は商工観光課と都市計画課の二ヶ所。なぜ使いつらいのかということ进行分析し、町内の会社の方が使いやすくなるようにしていきたい。職業訓練校とも検討している。

●【下水道課長】補足）水洗化工事も対象になっている。（便器・床・タイルなど）

●【町長総括】

農業後継者の課題については、農林業公社、後継者育成助成制度などの取り組みを今後も進めていこうと考えている。

マツクイムシについては、町も憂慮している。1つの町の問題ではないので、森林税を活用できないか県に提言していききたい。また、被害材の活用についても、今後検討していきたい。

ロードレース開催時期については、今後稲刈り・田植え時期を避けるよう配慮していきたい。

道路脇の草木の伐採について。町道との境界線の外は、地主の許可を得なくてはならないので、時間は少しかかるかもしれないが、話し合いをして対応していきたい。

病院ベッドの利用については現在盛んに協議中です。他市町村と同じ轍を踏まないように、時間をかけて活用方法について検討していきます。

リフォームの補助金制度については、町のPRが足りなかったのかもしれない。気軽に相談できる方法や、町の体制を考え、皆さんが使いやすくなるよう考えていきたい。

本日は、大変貴重なご意見をありがとうございました。

平成22年度 まちづくり座談会（彦部地区）

◎会場 彦部公民館

◎日時 7月27日（火）午後7時～9時

◎参加者 16人

◎役場出席者 17人（町長、産業部長、経営支援部長、教育部長、町民課長、商工観光課長、下水道課長、水道事業所長、企画課長、税務課長、企画課職員7人）

質 疑 応 答

〇彦部地区の子どもが少なくなっている。学校の統廃合を考えていかなければならないのではないか。

●【教育部長】当分は統廃合を行う予定はないが、今後様子を見て、統廃合を考えなくてはならない時期がくるのではないかと思います。

〇年齢構成に応じた「生き生きとした暮らし」のサポートが求められていると思う。年齢構成の変化を踏まえた総合計画を立てて欲しい。また、職業ごとの将来像が見えてこない。町はどのような方向性でいくのか。

●【長谷川主査】17年度の国勢調査をベースにして推計したところによると、H32年には0～14歳11.5%、15～65歳57.4%、65歳以上31.2%になる予想。0～14歳、15～65歳は減少する一方、65歳以上は増加し、30%を超える。

●【企画課長】年齢構成の変化を踏まえた総合計画の策定については、肝に銘じて取り組んでいきたいと思います。

また、町の産業については、紫波町は農業を基盤とした施策を行ってきているため、6次産業（1次産業×2次産業×3次産業）を目指した取り組みなどを行っています。

〇少子化の話が出ているが、小中一貫校にするということはないのか。

●【教育部長】紫波一中がオーバー気味、二中と三中は少ないなどの実情があり、小中一貫校の選択肢は否定しない。

〇町に「よりどころ」が欲しい。紫波中央駅前に、町の紹介をするスペース、町民の意識が統一されるような町のシンボリック的存在があればよいと思う。

●【企画課長】町民みんなが誇りを持てるシンボリックなものの存在は、多くの町民も望んでいるものだと思う。もう少し議論の余地があるところだろう。

○①子どもを増やす施策はどのようなことを行っているのか。②景気が悪く、就職する場がない。③道路の整備が、彦部地区は遅れているのではないか。

●【商工観光課長】②働いている人を守る助成金や、高卒就職を支援する助成金などの対策を行っている。また、町の農業を生かした産業作りを行い、一人でも多くの人が就職できるように取り組んでいきたい。

●→①・③は町長総括で回答。

○高齢者が安心して暮らせる紫波町を作っていたきたい。

●【企画課長】ご提言として受け止めます。

○少子化問題に加えて、心の病の問題、不登校問題、そしてその子育て世代、働き盛りの世代を元気にしていくことが、元気な町を作っていくために必要。親世代を元気にする人材育成方法があればよいと思う。

●【企画課長】満足度調査では、40歳代の満足度が明らかに低いです。子育てと職場の両立、地域とのつきあいなどが両肩にのしかかってくるストレスの多い年代ですので、声なき声を吸い上げていく必要性があると思います。そして、総合計画に反映させ今後取り組んでいきます。

○「スポーツを育てる」ということだが、(サッカーや野球などの)団体競技などはどのように育てていくのか。小学校以前からの取り組みが必要なのではないか。

●【教育部長】少子化の影響によって、地域でチーム編成ができないことから、学校を超えたチーム編成を行っているところもある。体育協会とも模索し、体力向上に取り組んでいきたい。

●【商工観光課長】サッカーの場合、幼稚園で希望をすれば、県から指導者を派遣することができ、大会などもある。学校単位を超えて、町内全域から集まって行う動きになってきている。

○紫波中央駅前にできる図書館にも、都南図書館のように、小さな子どもたちが本を楽しむスペースを作ってほしい。

●【八重嶋副主幹】

図書館整備には大きな三つの柱がある。

1つ目は、「学習を助ける図書館」。未来の紫波町の人材を育てる施設にしたい。子どもと母親が読書をするスペースも計画している。

2つ目は、「町の文化的な活動を支援する図書館」。地域の資料を集約し、一目で探している資料がどこにあるのかがわかる「情報の案内役」のような働きのある図書館にしたい。

3つめは「ビジネスの支援を行う図書館」。農業支援を中心として、他市町村へのPR、起

業の支援を行える施設にしたい。

○①図書館の蔵書は、何か特徴のあるものにしたら良いと思う。②水害などの災害対策についても総合計画に入れて欲しい。

●【八重嶋副主幹】①地域の資料を収集する図書館にしたいと考えている。地域の皆さんから情報を持ち寄るような形づくりを行いたい。例えば、寄贈レコードの紹介なども行いたい。

●【企画課長】②災害時の情報伝達手段としては、有線やコミュニティ FM など、様々な手段がある。コミュニティ FM 運営の母体をどのようにして育てていくかということが今後の課題である。

○ ①農業経営者育成支援策の例には、どのようなものがあるのだろうか。

②マツクイムシの対策をとってほしい。

③介護にお金がかかってとても大変。なんとか良くならないものだろうか。

④道路整備がなかなか回ってこない。

⑤これからの町の担い手となる年代から、声を吸い上げる方法について考えてほしい。

⑥プロの自転車選手の家を紫波町に建てたら良いのではないか。

●→①・④・⑥は町長総括で回答。②は農林課、③は長寿健康課から後日回答。⑤はご要望として受け止めます。

☆市民参加推進会議委員

子どもの教育にはある程度の学級が必要なのではないかと思う。早めに統合について考えてみてはどうか。

また、神社・仏閣の看板が書き換えの時期にきていると思う。

☆市民参加推進会議委員

地域の方による活動が盛り上がりつつあると感じる。これからは、若い世代にも声をかけて、関心を持ってもらうことが大切だろう。

○丸ノ内工芸の上にある公共用地（彦部中学校跡地、4 反歩くらい）の活用について。「楽しい紫波町」づくりに活用できないものか。

●→ご提言として受け止めます。

●【町長総括】

生き生きとしたまちづくりを行っていくために、やはり農業の活性化を進めていきたいと考えている。新たに農業に就労する人への支援や 6 次産業推進支援を行っているところ

である。また、これから農林業公社的役割を果たす組織も作ろうとしている。

工場誘致についても推し進めていきたい。紫波町は、盛岡～北上の中間にあるため、利点を活かしてほしい。

紫波町の歴史と文化については、地域ごとに大切に継承していくとともに、町全体としてもまとめていけるようにしたい。

人口減少は県内全域における問題であり、どのようにして人口を増やしていくかが課題。H27年頃には、紫波中央駅前に64戸の住宅が建つ予定。町外から新たに移住してくる人に住んでもらうことで、人口増加に努めていきたい。

道路整備については、地域にあった道路づくりをしていきたいと考えている。災害対策については、国土交通省との協議で堤防の延長などを進めていくつもり。

また、自転車選手については、実は紫波町にプロの選手が一人住んでいる。紫波町の最高納税者でもある。8月号の紫波ネットで対談が載るので、ぜひご覧ください。

今日いただいたご意見・ご提言をもとに、活力ある紫波町を作っていきたいと思う。ありがとうございました。

平成22年度 まちづくり座談会（赤石地区）

◎会場 赤石公民館

◎日時 8月4日（水）午後7時～9時

◎参加者 22人

◎役場出席者 16人（町長、教育長、生活部長、建設部長、経営支援部長、商工観光課長、都市計画課長、水道事業所長、総務課長、企画課長、企画課職員6人）

質 疑 応 答

=====
○①情報交流プラザの中には、具体的にどのような施設が入るのか。

②図書館だけでなく、観光情報を含めた情報の発信・受信は具体的にどのようにしていくのか。

●【企画課長】①情報交流プラザの建物のイメージは、真四角と長方形。長い辺 120m 奥行き 24m、2階建てで約 6000 平方メートル。公共と民間が入る。1階図書館、1階の一部と2階情報交流館。スタジオ大小合わせて6・7つが入り、従来の公民館よりも個人レベル、少人数でも自由に使えるようになる予定。観光情報の発信には重要な拠点になるだろう。

●【商工観光課長】②去年は、パンフレットが10万部発行されているJR東日本主催の「駅からハイキング」を初めてJRに観光コースを提案し、採択された。そのコースは「東京→日詰→五郎沼→記念館→フルーツパーク→中央駅」しゃべるとの提携で行われるもの。今年はこのコースに加え、「日詰のお祭り（朝日田）→城山→小昼ハウスでもちつき→古館駅」の2つを提案した。振興局で予算を取ってもらい、近畿日本ツーリスト関連会社の人が来て、コース作りの講習を行っている。今年が観光振興計画の策定の年。

●【経営支援部長】

情報交流プラザは、行けば紫波町のことがなんでも分かるようにする施設にしていくという構想で作られる。町が蓄積した情報や、新しい活動をしている皆さんにも情報提供してもらおうようにしていきたいと思っている。

農業の6次産業化、コミュニティビジネスなどポスト業務の気持ちのある人をサポートする場所にしていきたい。

○①オガールプロジェクトは本当に必要な事業なのか。お金はあるのか。また、図書館のレイアウトはどのようなものか。

②観光対策として、中国にチャーター便を出すのはどうか。

●【企画課長】①公民連携手法で、出資金は10年間で回収していきたいと思っている。想

像を絶するような借金額にはならないと思っている。図書館は、親子で読み聞かせを行える場や、子どもたちの読書スペース、中高生の学習の場などもある。②ご提言として受け止めます。

●【経営支援部長】高齢者が集うことがマイナスのように聞こえ残念だが、高齢化は今後さらに進む。どんどんお使いいただきたい。

○町民アンケートをせっかくやっているのだから、重要度・満足度に着目し、低いところを上げるようにして欲しい。

●【企画課長】総合計画には、より住民満足度調査の結果を深く分析して対応していきたいと思う。

○①財政問題が不安。公民連携など、どこまで進んでいるのかということを確認することが町民の信頼につながり、評価基準になると思う。政府が消費税を上げるなど言っているが、国がパンクしたら町がどうなるか心配。しっかりと説明を組み入れていくことが大切であると思う。②区長をしている。当地区は、一戸建て 84 戸、アパート世帯 52 戸であるが、1 回も会ったことがない人が半分くらいいる。一部屋に 2 世帯のアパートもある。プライバシーの問題もあり、聞くにきけないが、事件があってからでは遅い。区長をやっているのに、行政区内の住民の実態が分からない現状に不安を感じている。

●【企画課長】①成果の情報発信が少なかったと思うので、今後の課題としていきたい。

●【総務課長】②切実な問題であり、プライバシーへの過剰反応があることから、アパートの実態把握は苦慮されている。住民登録していれば世帯の名簿があるが、住民登録をしていない人の世帯については把握できず、何も配付していない。住民登録をしていないおかつ会えない、実態がどうなっているのか、ということについては、町民課にご相談ください。住民登録をしていない人の場合は、住民登録をするように促してほしい。また、個別に状況が違うので総務課へ相談し、一緒に行動していきましょう。

○ ①人口減少を踏まえた上での計画を立ててほしい。

②開かれた行政をやっていく上で、情報交流プラザは是非早期に開設してほしい。やはり、一緒に考えていくためには情報公開が重要。広報広聴の重要性を認識してほしい。

③人事管理について。40 歳前後の職員で、これからの町を担っていく職員が育っていると感じている。定年制があるのはやむを得ないが、単純に勧告をするのはどうもよくないのではと感じている。やめてほしい人がやめず、やめてほしくない人がやめてしまう。

④日詰駅前の整備について。紫波インター線近くに未整備の歩道が若干ある。また、国道 4 号の右折レーンも整備していただけるとありがたい。

⑤犬渚地区に、西田遺跡という縄文時代の遺跡がある。比爪館遺跡から西田遺跡まで整備していただけると、我々もやる気が出る。なかなか難しいとは思いますが、予算化を考えてほ

しい。

⑥みんなで一緒にパートナーとしてまちづくりに参画していきたい。できれば、節まで表示した予算書、決算書を各公民館に一冊ずつ配ってもらい、話し合いの参考としたい。

●【企画課長】①現在3万4千人ほどで、10年後の予想としては3万1千人台になる見込み。また一方で、高齢者の一人暮らし世帯が増えることから、世帯数は増える見込み。どのように対応していけばよいか、計画に反映させていきたいと思っている。

●【建設部長】④紫波インター線の歩道整備で欠けている部分については、県盛岡振興局と協議を重ねているところ。右折レーンについては、日詰駅前、松下物流倉庫、城山公園の3ヶ所、および本誓寺前は交差点改良の必要性があると考え、国土交通省に要望している。右折レーンは、渋滞対策委員会で110近くの県内渋滞箇所がリストアップされ、渋滞の多い場所を優先的に行うものであるため、ほとんどが盛岡が選ばれる。重要度を上げることが大切であるので、ホームページアンケートなどに意見を書き込むなど、熱意をアピールすることが大切かもしれない。

●【教育長】⑤遺跡を発掘するというにはお金が非常にかかる。予算が少ないので、計画的に進めなくてはならない。県に打診していますので、できるところから順に進めていきたい。赤石地区は一番先に手がけたい。みんな、特に子どもたちが楽しく快適な学習ができるようにしていきたい。

●【企画課長】⑥予算書・決算書については、ご要望があれば対応させていただきます。

●②→ご提言として受け止めます。③→町長総括で回答。

○①紫波中央駅前にできる子育て支援センターについて。今までの古館保育所・虹の保育園を中央に持って行くという話であるが、理想を言うと、歩いて行ける所に何か所も保育所があることが良いと思う。私は現在、赤石の子育て支援ひろばでボランティアをしているが、中央に移ってもボランティアに頼る部分が出てくるのではないかと。高齢者の人たちの町を思う気持ちや労力奉仕に町は助けられていると思う。そのような人たちに温かく目を向けた総合計画にしてほしい。

②また、高齢者は今後ますます増えると思うが、シルバー人材センターは事業仕分けの対象になるのではないのかと危機感を感じている。町全体で、貢献する力を応援していくシステムをつくってほしい。

●【企画課長】②今の時代は中高年の人の力無しには、成立しない環境になっていると考えている。総合計画に反映させていきたい。

●【生活部長】①子育て支援センター。現在の若いお母さんたちは移動に車を使っているので、中央部には比較的集まるであろうという見込み。お母さん方が集まり、情報を得るという意味で、子育て応援ための機能は果たされると思う。その中には当然ボランティアの方から教えてもらうということも想定しており、その力は重要であると思っている。②シルバー人材センターの22年度補助金は一切削りません。応援体制についても、高齢者の

視点で対応していきたい。

○昨年、総合計画に参加させていただき、役場と近くなった気がする。自分たちの意見が取り入れられるのは嬉しいし、町民にとってよいこと。

先ほどの中国の話だが、行ったら連れてこなくては意味がない。しかし、今の状況では呼べない。まず、看板が整備されていないので整備してほしい。また、歴史や文化財があるのに紫波町は他市町村の通過点になっている現状がある。そして、町民の人が町の事を知らなすぎる。地元の人が地元のことを知ってからではないと呼べない。

●【企画課】総合計画に盛り込んでいきたいと思う。

○紫波町には史跡・遺跡がたくさんあるが、そこから発掘されたものはどこにあるのか。そのようなものを実際に展示し地域の人に見てもらう「歴史資料館」のようなものを作ってほしい。

●【教育長】展示場所がないということで、2001年あたりから赤石小学校のガラスケースを利用して展示しているが、資料館は先送りになってしまってきている状態。少しずつでも展示スペースを確保していきたい。県に貸し出しているものがあるので、それらも町に展示したいと考えている。

○新しい建物を建てる必要はない。現存する建物を使えば良いのではないか。やる気さえあればできると思う。

●【教育長】2013、14年に建設予定の新庁舎に教育委員会が移転すれば、そこを資料館にできるのではないかと、内部で検討しているところです。

●【町長総括】

オガールプロジェクトの投資が過大投資ではないかというご指摘について。これまで町は、税金に手をつけない方法を考え、PFI事業＝長期のべ払い方式に着手したが、やはり負担がかかることから、それをクリアできる方法として公民連携方式で取り組むことにした。フットボールセンターには6千万円の投資をしたが、20年間で回収する予定であり、土地も町の土地のまま。建物を建てる場合は民間が建てて町が借りるような形になる。心配をかけるような額ではないので、ご理解願いたい。

協働のまちづくり、循環型まちづくりについてはなお一層力を入れて取り組みたいと思う。

区長さんに大変ご迷惑をかけているが、今後ともお世話願いたい。

職員についてたくさん評価していただいて感謝します。今年限りで早期退職勧奨制度をなくし、60歳定年制（実際に60歳まで勤務する体制を検討中）になる見込みである。

観光資源について。町民が地域を知らないという現状については、知ってもらえることで力につながっていくと考えられる。これまで我々行政があまりやってこなかったのでは

ないかと反省する。

高齢者の知恵を行政に取り入れるということには、なお一層考えていきたい。

文化財について。平成 25～26 年に新庁舎を建設する予定だが、場所の決定などは今後議会などで決定していく。

築堤を赤石神社から南にいった辺りで検討中。国土交通省も「住居のあるところは守らなければ」と考えているので、今後も推し進めていきたい。

本日は貴重なご意見をありがとうございました。

平成22年度 まちづくり座談会（赤沢地区）

◎会場 赤沢公民館

◎日時 7月26日（月）午後7時～9時

◎参加者 17人

◎役場出席者 18人（町長、副町長、生活部長、経営支援部長、福祉課長、商工観光課長、土木課長、総務課長、企画課長、生涯学習課長、農業委員会事務局長、企画課職員7人）

質 疑 応 答

=====
○通学路などもある県道「紫波・川井線」に整備計画などはないのか。

●【土木課長】川井村が合併したため、「紫波・川井線」は現在「県道紫波江繋線」になっている。県道であるため、町で直接整備できないので、県に毎年要望を提出しているが、なかなか着工につながらない。今後も、子どもの安全性を上位に考えて要望していく。

○世帯数が減るなど、地区でも少子高齢化が深刻な問題。勤めている人もいて、地区の行事に出てくれない。世帯数の減少に歯止めをかける良い方法はないだろうか。

●【長谷川主査】（資料の国勢調査のグラフを説明。）何も対応策を練らねば、減少していく予想となっている。

●【企画課長】人口減少は全町的な大きな問題であり、どうしていけばよいか今後の課題とし、総合計画に反映させていきたい。

○一つの建物でいろいろ活用できる建物がほしい。赤沢のフルーツパークと産直をつなげ、客が動かないで買い物ができるような利便性の高い施設にして、大きなイベントができるようになったら良い。これから建物を建てる際には、このようなことに配慮してほしい。

●【経営支援部長】紫波中央駅前に建設予定の施設は、多目的に活用できるような施設。今後の施設建設にあたっては、お客様が持つ似たような欲求はできる限り集約したものにして、利便性が高くなるよう留意したい。

○①子どもが生まれて育つ病院や環境などの充実を図ってほしい。②また、遊休農地が増えていることから産業誘致など、若者が働く場所としての雇用創出をしてほしい。

●【福祉課長】①紫波中央駅前に子育て応援施設を作る予定。「子育てをしたい」と思えるような多機能な施設をつくっていききたい。

●【商工観光課長】②町は、商・工・農の連携を進めて第6次産業化を目指しています。産業誘致も進めています。雇用人数は少ない状況ですので、今後もハローワークと連携

しながら取り組んでまいります。

○消防団員不足が心配。会社勤めの人が多く、誘っても時間がないからと断られる。操法競技会の訓練に費やす時間が膨大で、負担がかかっているのでは。操法競技会のあり方についても検討してほしい。

●【総務課長】消防団員は、さまざまな理由でなかなか増えていない現状にあります。操法競技会をなくすのは難しいですが、負担軽減については、消防団としてどうしていけば良いのか考えたいと思いますので、お時間を頂きたいです。

○水道工事の計画はどのくらい進んでいるのか。赤沢川の砂利が溜まっているところの整備についてお聞きしたい。

●【町長】水道工事については、今度2回目の説明会を行う予定。できるだけ地元の負担を少なくするために協議中。

●【土木課長】川の整備については、危険な所から優先的に浚渫などの対応をしている。具体的には渇水期の3月末あたりに行う予定。草木の伐採については、時期を見ながら進めている。

○牛ヶ馬場と繋の間が谷になっており、雪害で倒木があった。事故にはならず済んだが、雪が降ると怖いと思う。生活道路の危機管理として、どのようにすればよいのか。

●【土木課長】私有地の木で、枝が出ている場合は地主に連絡して切ってもらいます。しかし、木が「倒れそう」というだけで切ることは難しい。地域の方々が協力を求めたり、要請を行ったりすることが大切だと思う。

○部落が小さく、人数が少ないため、地域の役員をする順番がすぐ来て負担に感じる。農協の役員などもある。他の部落と合併するなどできないものか。

●→町長総括で回答。

○町道に木がかぶさってきているが、どうすれば良いか。

●【土木課長】木の所有者に切ってもらいたい。また、町有地の場合、場所を教えていただければ対応します。

○①子どもも多く通る県道に歩道がない。どうかならないか。②地元にもっと若者が働ける場所を作ってほしい。

●【企画課長】①県道については、県に要望します。②6次産業を中心にこれからも進めてまいります。

○少子化の対策として、子ども連れが移住してくるようなまちづくりを行ってはどうか。例えば、近年子ども達の学力低下が叫ばれているが、土曜日をもっと学力向上に役立てられないものか。(秋田は全国学力調査で1位だが、なぜ学力が高いのか知りたい。)郷土を愛する心を潰さない程度に、何か対策を立てられたらと思う。学校の先生方にも負担をかけず、学力を上げる方法は何かないものか。学力向上対策を通じて、人口減に歯止めをかけられたらと思う。

●【経営支援部長】(秋田の婚姻率と出生率は全国最下位であることを補足。)

●→学務課にお伝えします。

○①園地にクマが出て、収穫前にとられてしまう。電気柵もかいくぐって、どこからか入ってくる。「駆除はかわいそう」と言われるが、生活がかかわってくるとそうも言ってもらえない。出沒した時点で駆除してほしい。(クマの他にキツネ、タヌキ、テン、シカなども出沒している)②台風の被害に遭い、傷んだリンゴの処理に困っている。えこ3センターでは、肥料にもできないと断られ、農協でも加工リンゴは受け付けられないと言われた。救済措置として、どうにかならないものか。

●→①は町長総括で回答。②は後日、農林課から回答。

○①紫波中央駅前の舗装は、アスファルトではなくて地下に浸水するようなものにしてほしい。また、足に負担がかからないようなやわらかい素材を使ってほしい。②計画中の図書館は、県立大学の図書館のように外からの光を取り入れたり、太陽光を利用したエコな図書館にしてほしい。③勤労青少年ホームは、もっと明るいところへ移した方が良く思う。情報交流プラザの方にもっていけないか。

●【企画課長】②図書館については、只今専門員が入って計画中なので、期待に添えるようなものができると思う。③情報交流プラザに勤労青少年ホームを移すのは難しいと思うが、プラザ内には公民館とは違う、若い人が利用しやすい趣味の活動が自由に行えるような施設を入れる予定。

●【土木課長】①→都市計画課に伝えます。

補足)道路は基本的に排水性になっており、歩道は透水性になっている。考え方としては、駅前の道路は降った雨を一旦調整池に貯めて、一気に川に流れないようにしている。

○①家がクマに壊された。出てからでは遅いので、何とか対策をしてほしい。②しゃ・べーるが、時々団体を連れてツアーをしている。1回だけではなく、再度訪れてもらえる町にしてほしい。③紫波中央駅前にできる図書館も、アイーナのように、中高生の学習の場になればよいと思う。出会いの場にもなると思う。④民間や地元を協力を求める事業が増えている。ボランティアとして、地元を協力を求めるものもあるが、あまりたくさん求められても負担になってしまう。

●【商工観光課長】②しゃ・べーるの方々も「外の視点から見てほしい」と話していた。今年、県の事業で、近畿日本ツーリストが紫波・矢巾を観光地として売りこむ取り組みをする。大手の人の視点から見ていただき、新たな視点を取り入れ進めてまいりたい。

●【企画課長】③図書館の中には学習スペースについても検討している。具体性について、さらにつめていきたいと思う。④協働、ボランティアのあり方については、時間をかけながら皆さんと話し合っていきたい。

●①→町長総括で回答。

○マツクイムシの対策について、町でも何か対策をとってほしい。

●町長総括で回答。

☆市民参加推進会議委員

色々な困りごとがあることが分かった。それらの解決につながる総合計画につながればよいと思った。

●【町長総括】

紫波江繫線の峠道については、難しい問題だが、議論を進めているところである。

消防団はボランティアだが、歴史的に見てもなくすことができないもの。基本動作は、基本的に全員ができなくてはいけないものなので、操法競技会をなくすことはできない。

マツクイムシは、紫波町が境（防波堤）であったが、ついに矢巾町の大々生（おおがゆ）まで広がってしまった。本当は、1本見つかれば半径60mの木々を切らなくてはいけない。しかし、地主などとの交渉もあり、なかなかうまく進まないのが現実。薬をかけてしまうと木以外の植物も死んでしまうので、やはり伐採をする方向で対応を進めていきたいと考えている。

地区が小さくて、役員が大変である地域については、統廃合を考えなければならないと思っている。

紫波町の学力については、小・中学校共に県内平均より少し上回っている（数学は悪い）。学力対策から、少子化対策へつなげることは良い意見であると思う。教育長に伝えたい。また、休みの活用事業としては、岩手大学との連携で、日詰小学校の夏休みに学習支援活動が行われている。

クマ対策について。クマは一度食べた農作物の味を忘れないらしい。何度も被害が繰り返されるようであれば、やはり処分しなければならない。

本日は貴重なご意見をありがとうございました。

平成22年度 まちづくり座談会（志和地区）

◎会場 農協志和支所

◎日時 8月3日（火）午後7時～9時

◎参加者 11人

◎役場出席者 17人（町長、副町長、産業部長、経営支援部長、教育部長、福祉課長、土木課長、都市計画課長、下水道課長、企画課長、税務課長、企画課職員6人）

質 疑 応 答

=====

○志和地区の歴史を継承するまちづくりを行っていききたい。志和代官所の整備を進め、八戸藩の資料館をつくりたいと考えている。地元学をもっと充実させていきたい。

○いつでも郷土の歴史を見られるような資料館を整備したい。また、人が集まるコミュニティをつくっていききたい。買い物をする場がないという実態があるので、市などを開くことができないだろうかということを経験創造会議で話し合っていきたい。高齢者の生活支援を進めてほしい。また、学童保育が始まり、人数も17人の希望が届いている。

○①資料2ページにある表で、人口が減少しているのに、世帯数が増加しているのはなぜか。②また、少子高齢化にはどのような対策をとっていくのか。

●【企画課長】①様々な要因が考えられるが、独居老人が増えてくることが大きく影響していると考えられる。

●【福祉課長】②子どもたちの数が減ってきているのは事実。若い人を増やしていくために、今回紫波中央駅前に子育て支援施設を作る予定。また、駅前だけでなく、地域にもそのような支援体制が広がっていきやすいようにしていきたい。

○①町人口で、65歳以上の占める割合はどれくらいか。②転入の手続きの際には、もっと歓迎をしてほしい。

●【経営支援部長】①長寿健康課で、人口動態を基礎として秋・春に統計を出している。3月末の統計によると、町の総人口は34,248人、そのうち0～39歳は12,113人、40～64歳は12,113人、65歳以上は8,054人。よって現在の高齢化率は23.5%となっている。②職員教育については、今後も心して対応していきたいと思う。

○町には製材所が3、4件しかないが、育った木材の加工、活用についてはどのように考えているのか。加工する際に、他市町村の業者に行ってしまうのではないかと心配してい

る。製材所の方々を手厚く支援し、現場で働く若い人を育てるようにするなど、林業を元気にするような政策を行ってほしい。

●【産業部長】町は、公共木造建築の推進や町産木材を活用した住宅への補助を行っている。林業従事者の高齢化が進み、技術の伝承が難しくなっている現状を踏まえ、今後対策を進めていきたい。また、町産木材の活用としては、バイオマス活用を考えている。

○志和地区は、日中になると高齢者ばかり残ってしまう。外に行く場合、循環バスかタクシーしか交通手段がない。何か対応策を考えてほしい。

●【企画課長】すこやか号の停留所、コースの見直しを考えています。

●【高橋主事】地域の方々の要望も年々変わってきていますので、来年度に町内の総合交通の見直しを考えている。皆さんのご意見をいただきながら計画していくつもりですので、よろしく願います。

○紫波地域診療センターを高齢者医療や介護老人施設などに活用してほしいと考えているが、町では活用をどのように考えているのか。

●→町長総括で回答。

○新しくできる図書館で、町内小学校などで活動している読み聞かせボランティアを支援する体制をとってほしい。具体的には、読み聞かせの講座を開いたり、団体貸し出しができたりすることができるようにしてほしい。

また、郷土資料をデジタル化するなどして、図書館で町民が共有できるようにしてほしい。

●【経営支援部長】図書館施設には、読み聞かせができるコーナーやボランティア活動スペースが作られる予定でありますので、支援体制につきましても今から担当者におつなぎしておきます。

郷土資料の共有については、当初から計画されているものですので、現在少しずつデジタル化を進めているところです。

○10年後の歳入はどれくらいを見込んでいるのか。具体的な計画を立てるのには、その見込みがなければならぬのではないかと。紫波町はどのようなことでナンバーワンを目指すのか。

●【企画課長】10年後の予想を立てるのはなかなか難しいところがあるが、現在の立てられる見通では、平成31年度の段階で84億6千万円くらいと見込んでいる。22年度は120億ほどであったが、85億くらいまで減る予想である。

○①「1円募金」を行って見たらどうか。町民一人一人が町政、財政に参加する気持ちの意

識付けになるのではないのかと思う。②紫波町の健康づくりは県内一であると感じているし、高齢者の健康づくりは定着してきていると思う。③消防車が通れずに消火活動ができない道があったり、けやき通りのアスファルトがぼこぼこで車いすやベビーカーがうまく通れなかったりする。仙台市のけやき並木通りはきれいであり、先を見据えた工事が行われたのだと思う。紫波町も、今後、先を見据えた整備を行ってほしい。

●土木課長③けやき並木については仙台市も苦慮している様子。道路整備はお金がかかる事業であるため、効率の良い方法で進めている。なかなかご要望に素早く応えることはできないが、危険な箇所についてはできるだけ早く対応したいと考えているので、その際にご連絡ください。

●→①・②は町長総括で回答。

●【町長総括】

地区創造会議で地域の皆さんと話をしていかななくてはならない。

少子化について。人口は減るが、世帯は増えることは致し方ない。歯止めをかけるためには、親子の絆をなんとか取り戻していかななくてはならない。親子で食に取り組むことで、すべてのことが解決できるのではないかと。親子の関係を取り戻すのは食であると思う。また、高齢者の支援も行っていかなくてはならないが、新しく生まれる子どもや若い人をどうやって増やしていくのかということが課題。紫波中央駅前開発で取り組んでいく。

紫波町は何で1番を目指すのかということについて。紫波町はモチ米生産が日本一。非常に優秀だと評価されている。また、日本でトップクラスであるというのは、PFI（岩手で6つのうち3つは紫波町）事業や、PPP（公民連携）事業。中でもPPPは日本初。民間方式を取り入れた手法はトップクラスなのではないかと思っている。さらに「循環型まちづくり」も国内ではトップクラスである。

農林業の衰退には支援対策が必要。今のうちに力をいれていかないと、後世に大きな影響を与えてしまう。農業の基盤をしっかりと作って、支援をしていく。

紫波地域診療センターについては、前長寿健康課長を地区医療対策専門員として迎えて取り組んでおり、現在方法を模索しているところ。

一円募金については重く受け止めたい。要は、「気持ち」の問題であると思う。今後の課題としていきたい。今後進めていきたい。

また、紫波町は、88歳で自分の身の回りのことは自分で行えるということが理想。1人でも多くそのような人が増えるよう、健康作りに今後も力を入れていきたい。

今後のまちづくりは、明るい方向に、どう町をコントロールしていくかということが課題。活力あるまちづくりを進めていきたいと思っている。

平成22年度 まちづくり座談会（水分地区）

◎会場 水分公民館

◎日時 8月2日（月）午後7時～9時

◎参加者 20人

◎役場出席者 16人（町長、教育長、生活部長、経営支援部長、総務課長、企画課長、税務課長、生涯学習課長、農業委員会事務局長、生活環境室長、企画課職員6人）

質 疑 応 答

=====
○①日詰ー水分線の歩道等整備の請願が採択された後の取り組みはどうなっているのでしょうか。②農地用排水路の整備、新設をお願いしたい。宮手の水路、水位が上がり危険なことがあった。現状を見て欲しい。また、全く整備されていない水路がある。整備をして欲しい。

●→①土木課②農林課が後日返答します。

○町は無機資源循環、ごみ減量化を進めているが、今後、エコタウン構想は考えられないのか。

●【生活環境室長】町はこれまで、ごみを出さない、再利用する、リサイクルということの基本に取り組みを行ってきた。10年前に作った環境・循環基本計画も今年見直しになるので、その中でエコタウン構想についても一緒に考えてまいります。

○①減反政策を見直しては良いのではないかと。②防火水槽を設置したい。③原子炉は危険であると思う。風車（かざぐるま）のような風力発電を紫波町に作ったらどうか。④山王海ダムから、水洗便所の水を引いたらどうか。水分の水を使うのはもったいない。⑤紫波中央駅の看板が見えづらい。

●【町長】①減反対策について。モチ米は足りないということで、今年は300トン増やす予定であるが、うるち米がなかなか売れていないのが現状。大麦・小麦・そば・野菜などに変換せざるをえない。③原子炉に否定的だったノルウェー・スウェーデン・オランダも、二酸化炭素削減のため、原子炉活用に転換する方向になってきている。風車のような風力発電については、水力に応用できる。以前1年間の調査をした結果、採算がとれないということが分かったため、町では取り組んでいないが、個人宅では様々応用できるのではないかと思う。④山王海ダムは農林省の管轄で、町が使用する時には一部負担金を納めなくてはならない。よってしばらくは、現在の北上・花巻・紫波の広域で水を引く体制を保っていきたいと思う。下水道については、地下に管を掘るのに1mあたり10万円かかるため、

個人ごとの浄化槽を頼らざるを得ない。⑤標識があやふやであるということは、町民から何度かご指摘をうけている。現在、紫波中央駅前整備を進めている途中なので、それに合わせて看板整備も行っていきたい。

●【総務課長】②防火水槽の設置には、多額の金額がかかり、年次計画に沿って緊急性のあるところから整備を行っているのが現状。ご要望のある場合には、区長などを通じてご連絡ください。

○要望にいつも素早く対応してくださり、ありがとうございます。

○第3セクターの運営について。監査はどうなっているのか。

●【経営支援部長】四半期ごとに監査を行っている。職員のやる気を引き出していく姿勢、3ヶ年計画の内容について、コスト削減のための努力などについて監査を行った。

○①紫波フルーツパークで製造している自醸ワインをイメージし、北海道の池田町のように、駅前の舗装をワインカラーにしてPRしてはどうか。

②町からオガール紫波株式会社への出資金は390万であったということだが、その後、増資金はどのくらいの規模になったのか。また、オガールの事務所の看板はどこにあるのか。

●【企画課長】①ご提言として受け止めます。②町から当初390万出資し、民間からの増資を含めると現在1000万円が集まっている。また、事務所については、ナックス南側のアパートの一室にあり、現在大きな看板は出していない状態。

○子ども手当は1人いくら位出るのか？

●【生活部長】現在は、1万3千円ほど。そのほかに、児童手当も加味されているため、家庭によって給付金額は異なっている。

○教育長として、紫波町の教育水準向上対策をどのように考えているか。

●【教育長】町が昭和60年代から取り組んでいる小・中学校対象の標準学力検査などによると、町の子どもたちの学力は全国平均、県内平均ともに上回っている。しかし、ここで満足することなく目標を持って各学校がそれぞれに取り組みを展開していくことを呼びかけていきたい。

また、町は現在、現在英語教育活動に力を入れている。県教育委員会の指定も受けており、町のために頑張る子どもたちを育てるために必要であると考えている。

○①水分小学校の子どもたちのあいさつが素晴らしく、徳育がしっかりできていると感心した。②2025年に東北6県で人口が増える市町村は、矢巾町と宮城県の利府町の2つしかない予想になっており、紫波町は2025年には3万1千人、2030年には3万人を切るとい

う予想。人がいなくなるということは活力がなくなるということ。人口減少に歯止めをかける施策についてご検討願いたい。

●【教育長】①子どもたちのすばらしさは、小・中学校の先生だけでなく、水分地域の方々のご指導のおかげ。これからもよろしく願います。②子どもたちの人口も、ここ10年間で400人ほど少なくなっている。今後も、紫波二中、紫波三中の生徒が激減する予想。一～三中を統合するという状況にもなってくるかもしれない。

●【町長総括】

道路整備の要望については、日詰駅前整備が今年で終わるので、今後順次計画的に進めていきたい。

水路については、担当課で現地視察させていただきますので、ご案内をよろしく願います。

人口減少の歯止め対策については、紫波中央駅前開発で公民連携システムによる雇用創出ができると考えていますし、200年住宅の建設、紫波中央駅前の東口、日詰駅前開発などを進めることによって、人口増加につなげていきたいと考えている。

エコタウン構想のご提言があった。できるだけエコな暮らし、エコなまちづくりを進めていきたい。

水分の水は、住民の反対が多いため、売るわけにはいかない。地域の貴重な水源として大切にしていってほしい。

オガール紫波の事務所は、フットボールセンターができればフットボールセンター、図書館ができればそちらに移転する予定。

今回いただいたご意見を新しい総合計画に反映させていきたいと思う。ありがとうございました。